

寺崎組新聞

発行所 寺崎組新聞社

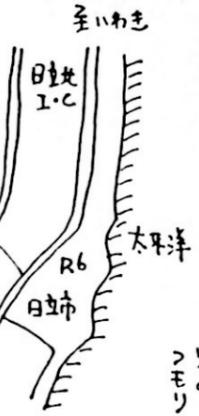
平成七年度組会決定!

五月二日塾

茨城県日帝

常磐自動車道

高鈴パーキング



九月二十三日塾

岐阜県坂下町

坂下駅前



一九九六年二月二十四日会

群馬県利根川の

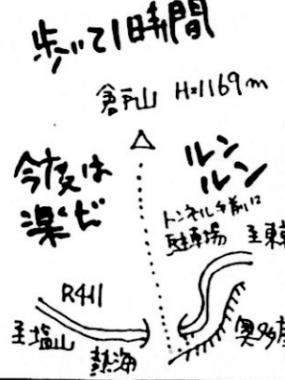
河川敷にてエントー

走りまわす

十一月二十五日宴会

東京都奥多摩町

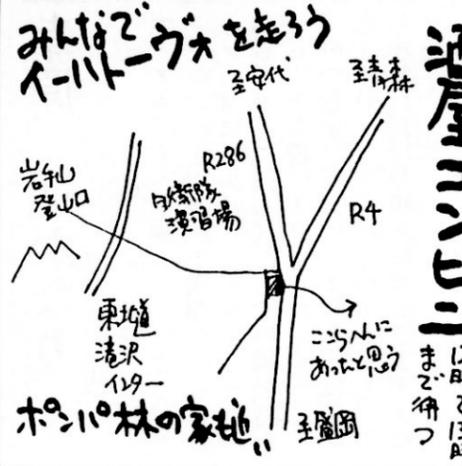
倉戸山頂上



十二月二十五日宴

山梨県武川村

小武川林道上流



八月十二日塾

岩手県滝沢村

滝沢分かれにある

酒屋コンビニ

野口オヤシの釣ッガノオ

魚名: アイゴ(バリ)
 (四国大分県に多い)
 平成7年1月21日
 千倉町白明津の石蔵

体長: 1.4m 体長: 38cm
 ハリス: 1.5号

釣人: 野口雅弘

六ツ石・尾根道・迷い道
 〓久々の山頂宴会はやっぱり
 体力一本勝負!の第43回組会報告

今年もやって来ました!年に一度のお約束の山登り組会。昨年は大雪の為、誰も目的地にたどり着けなかったという悲惨な結果に終わったが、今回は一体どうなる事やら。

ガイドブックによれば約4時間というハードな行程(小生にとっては)なので、徹底的に装備の軽量化をはかった。ランタンは削除、食器はシェラカップとフライパンと割り箸のみ。主食は餅とインスタントそばと色々工夫したが、酒だけはしこたま持ってしまおうのは悲しい性である。

さて快晴の2月11日正午、目的地六ツ石山の登山口に到着したが誰のバイクも車も無い。やや心細くなりつつ出発前の腹ごしらえをしているところに、地下鉄の地図によれば、もつと上の車道の終点からも登れるようなので行ってみると、ランクル沼海号が置いてあり一安心。しかし小生のこのいい加減な地図が不幸を呼ぶ事を、この時は知るはずも無かったのである。

地下鉄・荷崩れ兩名の出発後10分程してからボチボチ歩き出すが、いきなりツツラ折れの連続でかなりきつい。しばらく行くと、荷崩れがすでにドロッキー状態となって座り込んでいる。おいおい、お前まだ20代だろ。ようやく急坂が終わる楽になったが、なかなか尾根に出ない。「変だな」と思いつつも、とりあえず足跡がいくつも着いているので間違いないかとそのまま前進を続けて行く。やがて沢づたいの急な登り、そして雪、雪、アイゼンを着けてなおも歩けず、道ははきりなくなくなり、足跡も無くなってしまった。完全に道を間違えてしまったようだ。地図を拡げても出発地点さえない。さきりしないのだから、現在位置も確認不能。とりあえず装備と食料は有るかかわるような事は無いだろうが、やはり少々焦る。一息入れて気を落ち着かせた後、引き返しにかかると、30分程下りた所で、ようやく正規のルートが発見。小さな案内板を見落とし、右へ折れるべき所を直進してしまっただけ。90分程の時間と体力を無駄に使ってしまったので、日没までに山頂へ到着できるか怪しくなってきた。先を急ぎたいが再び急坂の連続で、一向に



斜面で木にしがみつきながら朝の儀式を終え、ウダウダしながら撤収完了。11時に締めを行ない、全員で下山開始。体力が有り余ってしょうがないモクは、列の先頭から再後尾まで行きつ戻りつ駆けずりまわっている。TW柳沢と荷崩れは大幅に遅れながらついてくるが、疲れ果てながらも隙有らばボケをかますのは忘れないTW柳沢であった。滑り易い下り坂に気を使いつつも、2時間余りで下山。この内半数ほどのメンバーは、更に上野原の沼海郎へとただれ込み、再び宴会が始まるのであった。

記・この二日後までは
 人生バラ色だった酔金



夕湯をバックに記念撮影後、いよいよ宴会へ突入。いつもの様にTW柳沢がせせとマキを集めて来たが、かなり冷え込んで来たので沼海氏の6人用ダンロップが本日の宴会場と相成った。それにしても皆、荷物の量が半端じゃない。バイクの時とほとんど変わりなく、酒、食料、小道具が出て来る出て来る。この熱意と体力を他の事に使えば皆もっと幸せな人生が送れそうなんだが...。後はモクを交えてのいつもの宴会が続いていくが、さすがに疲れたのか一人、また一人と自分のテントへ戻っていく。地下鉄のテントでの二次会も土曜の夜のお約束「お時間拝借」の終了と共に閉じられた。

翌朝も快晴、気温も5℃程までしか下がらなかつた。富士山には絵に書いた様な笠雲がかかっている。天気もそろそろ下り坂か。ゴミと共に昨日のマキを燃やしながら朝食を食

81年に、半年もかかって昔免を取得していたが、四輪も二輪も興味は無く、Pドライブで数年を過ごしていた。87年春、XLRに憧れ、乗りたくてとにかく中免を取らねばと思いついた。まずは、友人のMB50を借りて練習したが上手くない。走り出すのは良いが、ギアをNに戻せない等...。これではいかんと原付購入を決意。居並ぶ中古車から選んだTLM50が初めてのマイバイクとなった。手離してしまっても忘れ得ぬ良いバイクだった。乗り易く、元気で、かわいくて、中免取得の為の教習所への足としても活躍してくれた。

そして87年9月に念願の中免取得。TLMとの別れは余りにも辛かったが、憧れのXLRで公道を走る資格(技術ではなく、法的には)は得られた。運転試験所からの帰途、バイク屋で87年型XLR250R購入を契約した。なのに、せつなくの新車を2か月程で売却してしまつた柳沢だった。

XLRに憧れ、XLRに乗る為のこれまでの時と金は、何だったのか? どうした! 柳沢? 以下次回? (この年の春、TWは発売されていた)

TWへの道 第2話

草原、遙かなり。

第2回 寺崎 勉

二、アルバイヘル
 ウランバートルから南西へ約450キロの所にアルバイヘルという町がある。草原に続く穴だらけの舗装路を一日半走り続けて到着した。

町の数キロ手前に、オンギ川に架かる100メートルほどの橋がある。打ち出しただけの粗末なコンクリートの橋だ。

透き通った流れの中で、放し飼いの馬が数頭、ゆったりと水を飲んで居る。その川で私達はポリタンクに水を汲む。今日と明日、もしかしたら明後日の分まででなくなるかも知れない水である。通訳氏によれば、井戸の水よりも川の水の方が良いと言ふ。その理由は、旅を続けていく中で少しずつ分かっていく事となる。

橋の上には、いつの間にかテールを着た男が3人、水を汲む私達をじっと眺めていた。

土埃で汚れた黒いテールに、こげ茶色に日焼けした肌、眩しそうな目。私達への視線は斜めを向いている。

サンバイノー（こんにちわ）と私が言う。

ツァンバイノーとはにかんだ小声が返ってきた。

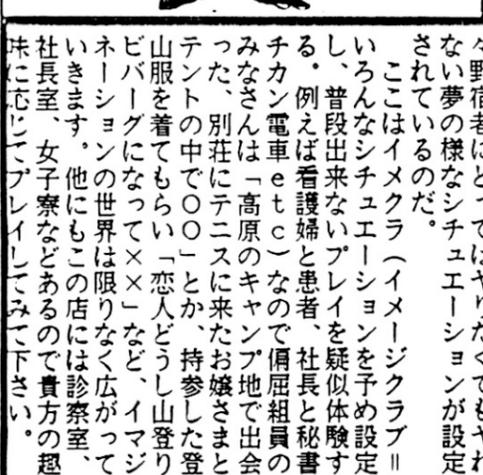
一瞬だけ白くて大きな歯を見せた。会話はもう続かない。

私達が発するまで、男達はそうやって私達をじっと眺め続けていた。

この町でガソリンを補給することに。町らしい家並みはどこにも見当たらない。

広過ぎる通りの向こうに、崩れかけたコンクリートとバラックのような木造が見えるだけだ。

分りにくい所だけ先行することに。



なっていたサボットのランクルは、砂埃を上げて草原の中を走って行く。

やがて、電柱の向こうに石組みの建物と銀色のタンク、旧ソ連製の軍用車。それららしいボロ車が数台見えてきた。看板も何もありはしない。町はずれにあるのは危険防止のためだろうか。

我々の一団、日本製の車一台と日本製のバイク四台が近付くと、地面から沸いて出てくるかのようにモンゴル人達もゾロゾロ集まり始めた。

何も言わず、ささくれだつた手、濁った目、白い歯、羊臭い体臭、そんな人達がバイクをさわり始めた。

プラスチックの部品ばかりで出来た日本製のバイクが珍しいのだ。

ただそれだけだ。悪気は感じられない。ボロを着た裸足の少年は、淡い金色の髪で青い目をして居た。

プラスチックのフェンダーを無でたり叩いたりしているその少年に、ニッと笑いかけると、ニッと歯を見せる。それだけなのだ。

ガソリンの給油は、地面から無造作に出ているゴムホースで行なう。

ホースにはストッパーが無い。窓拭きサービスも無い。

基本的にはセルフサービスである。

サボットカーの運転手であるジョーギ氏がバイクのタンクにホースを突っ込み、石組みの建物の中にあるポンプ操作手兼ガソリンスタンド店主に向かって合図する。

ドットとガソリンが出て、バイクの小さなタンクはすぐ一杯になる。

その時、ジョーギ氏はポンプ操作手に向かって「ウォーッ」と叫ぶ。

薄緑色のガソリンが勢いよくこぼれ。この町を出ると900キロ先まで舗装路と出会う事は無かった。

風景は一気に荒涼となった。

シリーズ「日本の林道」
 第一回「御岳」

中央道中津川からR257を北上すると、付知（つけち）町、加子母（かこも）村、下呂町と続く。この3町村から県境の峠を越えられる林道は3本。その先に霊峰御岳がかい間見える。舞台峠を下ると、「鞍掛峠6km」の表示がある。ここでガソリン、水、食料の補給をしてバイクの点検をして入る。村の外れから杉林の急峻を駆け上ると、やがてダートとなる。

かつてより少し短くはなったが、鋭いV字谷にへばりついて急激に標高千六百メートルに迫り着く。ここは長野との県境の峠だ。何年前かに組長がこの峠へ向かう写真を見て行って見ようと思ひ立ち、年季節ごとに走って10度目の到達だった。

地下鉄と台風間近の野宿もしたし、フーマのXR2台とこの先の廃屋で土砂降りの雨に閉じ込められた事もある。今回も含めて8度は単独行だ。峠にガッチリとゲート。左脇を空荷で通して静かに走り出す。

ここから三浦（みづら）貯水池まで。杉の実験林やらが続くが広葉樹の大木の多いこちよ。上下道が続く。水無林道のゲートが廃止されて、峠に移って6年位になる。路面の変化が早いので、崖崩れの多さを常に頭の中に入れて進まなくてはならない。貯水池の水位が極端に下がって不気味だ。営林署住宅の脇を通り、しばらく進むと森林鉄道の名残りの橋脚が立ち、枕木が残り「五味沢林道」から、「御岳林道」へ変わる道標がある。ここから木曾松の巨木の中を行く道だ。谷をまいて下って、橋を渡ってまた谷をまいて上るといった山岳路が延々と続く。神々しいばかりの樹林と静寂。聞こえるのはXRの乾いた排気音だけ。一人でいる事が幸せな時間だ。

やがて分岐の三叉路に着くが、ここ

のゲートがずつと先に移されている。盗難防止の為に。左折して深い谷を見つ下ると滝越集落に着いて38キロのダートが終わる。一服して今渡った橋をすぐ左折。舗装が1キロばかり上がったが、浮き石の走り辛さはいつ通っても同じだ。一気に上がって集落を右の眼下にちらりと眺めてすぐ樹林深く、道はいよいよ荒れてくる。やがて大きなV字の沢が2本合流する。川幅200メートル位。深さ数十メートル。長野県西部地震の震源直下のこの沢を巨大な土石流が走り、柳ヶ瀬という集落を一気に呑み込み壊滅させたのだ。

今日も川水が濁っている。

上流で雨でも降ったのだろうか。

河原を渡って、山へ上がり橋を渡って対岸の崩壊に怯えつつ、静かに現場を去る。再び深い樹林を行くも、価値の高そうな松は無く、かつての生活路が打ち捨てられただけの道になる。淡々と走るには良い林道だ。バス停やら鉄道車両があったりと、仲間俵ばせてくれ厳しくも悲しい道だ。22キロのダートは集材所のゲートを出て終わる。途中御岳の眺望は無いが、懐深く抱かれて居る気分がする。日本有数の山岳ダート超A級の道はここまで6本を走り継いでダート60キロの行程だ。

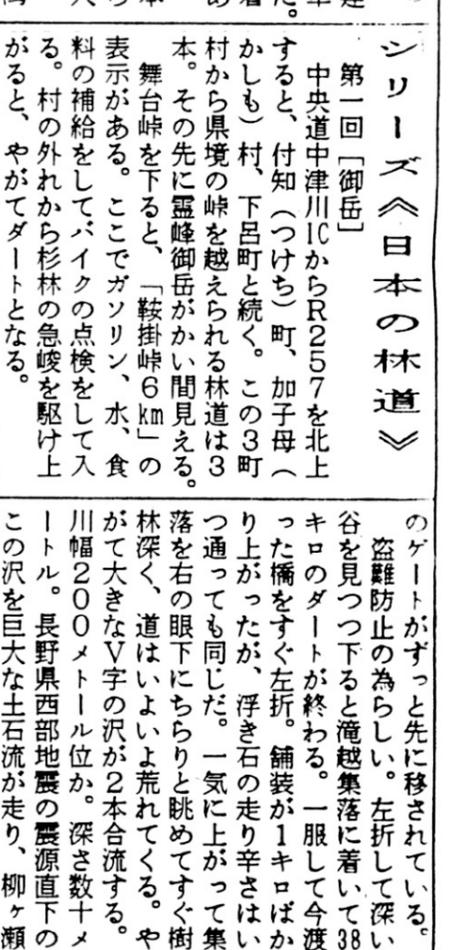
毎日本ストウ記

超法規的穴埋め型風俗案内記事

ソーマ先生のこんな店あんな店

風俗業界広しと言えど、アウトドア風ブレイが出来るのはこの店だけである。六畳程の部屋に3人用テント、人工芝、森の絵のカベ紙、コールマンのランタン一つ、ベンチの上にテニスラケット、鳥のさえずりのBGMが流れる中、テニスラケットのオネーチャンがあらわれお相手してくれるという我々野宿者にとってはやりたくてもやれない夢の様なシチュエーションが設定されているのだ。

ここはイメージ（イメージクラブ）いろいろなシチュエーションを予め設定し、普段出来ないブレイを疑似体験する。例えば看護婦と患者、社長と秘書、チカン電車（チカン）などで偏屈相模のみなさんは「高原のキャンプ地」で出会った、別荘にテニスに来たお嬢さまとテントの中で「恋人」とか、持参した登山服を着て「登山」など、イメージビバションの世界は限りなく広がっていきまます。他にもこの店には診察室、社長室、女子寮などあるので貴方の趣味に合ったブレイしてみてください。



組長の「お宅拝見」
 136号ナース青木編

地元の産で本場にそういふのが（ある）の長い鉄塔型看板が目につく程度。そして「一人娘」と「柚美人（つむぎびじん）」という地酒の看板。ガラガラと国道を進む。やけにトラックが多いし埃っぽい。というところ。国道125号に突きあたると、そこが下妻市だった。右がつかば学園都市方面、左が古河方面。左折した市営パークキング方面を3つ折。この砂沼、ただの沼。一応は公園になっている。その一角に、砂沼サンビーチというのがある。あのちたない沼で泳ぐのか、茨城県人はすげーなと思ったがアルだった。青木正志はそこで5年もアルバイトしていた。その市営パークキングにうすら馬鹿でかいブレイザーが停まっていたからすぐわかった。夕方の市営パークキングにもう1台、換無しのバジエロシヨナル。隣の親戚飯金屋に穴開きヨシヨナル。市営パークキング向かいの運動場裏のJ57とエスクードと腐って不動のXLバリダカ。部屋は汚いからと見せてくれなかったが、玄関から覗き見たところ本場に汚なかった。玄関横に見分けるのがほとんど困難。大のネネ&ヤヤ&チャチャ（四月発売のオートキャンプ）に登場。めばしい山も森もなく、ほとんど不生にしか見えない茨城平野の下真ん中では似合わない起伏のある性格は、ひとえに奥さんとの甘い生活による。ところが大きいのだろうと思われ。フン



ソーマ先生のこんな店あんな店

ススキノ、イメージルーム

TEL/011-552-3842

営業時間/10:00~24:00

初回入会金/三千元

イメージブレイ/一万二千元

メデイカルブレイ/一万五千元

おまかせブレイ/二万円（各45分）

*当コーナーでは風俗誌写真師ソーマ先生のホットな情報を出血大放出！モチない野宿者のシモの悩みを先生におまかせください。第2回はありますか？

編集後記

でもっと原稿送らんかい、技がけるぞ!!

地獄ウケたわってええワ、プロ打つてええわね

柳ノコギ平当は最後までなめて金ほう

毎々また首になつて、さつさつ、さつさつ、さつさつ

税務誰かマンがのネタ考えてくれよう

林、あのつたのむから静かにしてくれませんか

金、身も心もエグにささるる、ささるる、ささるる

ようになつてしまひました。ウウウ

組長執筆中雑誌

造形社

- ダートスポーツ 毎月24日発売
- バックオフ フィールド出版 毎月6日発売
- オートキャンプ 八重洲出版 毎月15日発売
- サイクルワールド 毎月25日発売
- CCV (季刊) 大日本絵画 春号4月末発売

組長単行本 「バイクキャンプ」 山海堂 絶賛発売中!